

愛知サークル9月例会報告

2020年9月21日（月） むらさきかん 参加：6名

☆8月30日にご逝去された宮坂先生を偲んで黙禱。

I 文学教材の追求

1. 「追求の授業（文学教材）の方法について」（13年 宮坂先生の資料）
 - ・「対話の本質は対立」「学習の本質は追求」
 - ・「自覚と随意」：自覚するだけでは習得できたといえない。活用できるようになって初めて概念形成ができる。
 - ・授業の効果の検証としてビデオや授業記録を重要視
 - ・授業の方法論が大事。ブックレットで理論を学んでいく。
2. 「月夜に」（5・6年）
 - ・単に言葉に出会っただけで、大雑把なところで空中戦をやっている。⑩だけでもありえない世界なので、その⑩とどこをどうつなげていくか。
 - ・「うっとり、まどの月をながめる。」を追求動機として、「みんな、しろい ばらの はになになったみたいねえ。」をどう読むか。
 - ・解釈は、言葉と言葉のつながり、それをどう構造化するかである。構造が分かってなかったら、授業にならない。言葉のつながりを構造化することが求められることが、改めて認識された。
3. 「大きなかぶ」（1年）
 - ・「展開案通りに授業が進められた。」と教師側が振り返っているが、子どもは「聴く」ができておらず、集中できていない。
 - ・ねずみが加わったことで、「やっと、かぶは ぬけました。」となることに、子どもが大いに疑問をもったなら、そこから問題をつくって授業展開できるとよいのではないか。
 - ・「ところが」「それでも」「まだ まだ」「まだ、まだ、まだ、まだ」「やっと」の言葉のつながりを重視する。

II 「表現教材」の追求

【体育】側転

- ・最初で勝負がつく。吸い上げ、上半身のしわがないこと、後ろの手は耳に当てるなど。

【図工】

「あじさい」（ちぎり絵）1年

- ・6月に本物を目の前において実践。初めての絵の具。
- ・色の発色がよく、濃淡や毬のような形、微妙な空間があってよい。

「木々を見つめて」4年

- ・ねらいが何かが重要である。木だけに焦点を当て、バックをなしにしてもよい。

「レース編み」5・6年

- ・ねらいは、「筆先」と「水かげん」。模様は繰り返しが美しい。

「立つ友」5年

- ・作品がどうしても小さくなりがち。大きさの基準を示すとよい。部分練習も必要。